

消防団協力事業所表示証を新たに交付

市は、複数の従業員を消防団員として入団させている事業所や、災害時などに消防団に資機材の提供の協力を行っている事業所などに対し、北上市消防団協力事業所表示証を交付しています。

今回、次の事業所に表示証を交付しました(8月31日)。
株式会社北関東工業東北支店

これまでに交付を受けた協力事業所は21社となりました。

認定の有効期間は、認定の日から2年。表示証は事業所などに掲示されています。



▼申し込み・問い合わせ：消防防災課 ☎72-18305

放射能物質に汚染された農林産物の本焼却結果について市民説明会を開催します

東京電力福島第一原子力発電所の事故によって放射能物質に汚染された農林産物(ほだ木、牧草、稲わら)について、27年3月より本焼却を開始し、無事焼却が終了しました。その間、定期的に放射性セシウム濃度および空間放射線量を測定し、全て基準値を大きく下回る結果となりました。詳細について市民を対象に、次の日程で説明会を開催します。

申し込みは不要ですので、直接会場へお越しください。

日時	場所
10月5日(月) 午後6時～	鬼柳地区 交流センター和室
10月9日(金) 午後6時～	更木地区 交流センター和室

市指定文化財に2件を指定

市教育委員会は5月25日付で、次の2件を市指定文化財に指定しました。

今回の指定で、市指定文化財の総数は116件になりました。

白山神社算額
 ▼所在地：黒岩7-136
 ▼所有者：宗教法人白山神社
 ▼寸法：縦39cm
 横69・1cm

白髭神社算額
 ▼所在地：下鬼柳7-171
 ▼所有者：宗教法人白髭神社
 ▼寸法：縦32cm(下半は欠損)
 横153cm

▼指定理由：明治15(1882)年の年号が記され、市内に現存する算額3面のうちのひとつ。県内で和算が浸透した状況を知り得る貴重な歴史資料であるため

▼指定理由：万延元(1860)年の年号が記され、県内で算額の奉納が最も盛んなころのもの。市内に現存する算額では最も古く、当時市内にも和算が普及していたことを示す貴重な歴史資料であるため

▼問い合わせ：文化財課 ☎65-10098



白山神社算額(表)



白山神社算額(裏)



白髭神社算額(表)



白髭神社算額(裏)

横川目幼稚園幼年消防クラブに 岩手県幼年婦人防火委員会会長表彰

横川目幼稚園幼年消防クラブ（佐々木千栄子園長）は1日、平成27年度岩手県幼年婦人防火委員会会長表彰の優良幼年消防クラブとして表彰されました。伝達式は16日に同幼稚園で行われ、園児を代表して佐藤花音ちゃん（5歳児）と高橋陽向くん（4歳児）が北上地区幼年婦人防火委員会会長の鈴木和夫北上消防長から表彰状と記念品を受け取りました。同委員会は毎年、火災予防

意識の高揚および啓発に多大な貢献をしている他の模範と認められる、結成後5年以上経過しているクラブを表彰しています。

同クラブは平成8年5月1日結成。火災・避難訓練を定期的に実施するほか、冬場には積雪や凍結時の避難の仕方などを学んでいます。他にも、同敷地内の小学校との合同避難訓練や、通園バスが事故に遭ったことを想定して訓練を



表彰された横川目幼稚園幼年消防クラブ

岩手県議会議員選挙の開票結果(北上市)

岩手県議会議員選挙が6日、市内56カ所の投票所で行われました。開票の結果、市内の投票率は53.65%で前回比5.56ポイント減でした。詳細は次の通りです。

候補者名(届出順)	市内得票数
佐藤 ケイ子	8,797 票
久保 孝喜	5,181 票
せきね 敏伸	8,208 票
高橋 はじめ	6,955.109 票
高橋 こうしん	6,657.890 票
こまつ 久孝	4,139 票

当日の有権者数 75,237人
投票者数 40,363人
投票率 53.65%

市内の避難者状況

(8月31日現在)

区市町村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市
世帯	3(0)	14(0)	28(0)	18(-2)	9(0)
人数	5(0)	31(0)	47(0)	42(-3)	17(0)
区市町村	陸前高田市	宮城県	福島県	合計	
世帯	10(-2)	10(0)	11(-2)	103(-6)	
人数	13(-6)	17(0)	25(-5)	197(-14)	

※()は前月比。市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

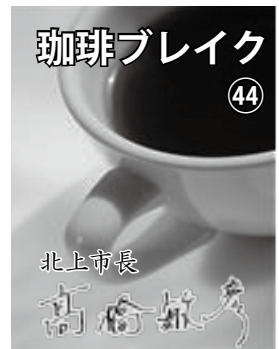
行うなど防災への意識が強く、あらゆる災害に対する訓練活動をを行っていることなどが評価されました。

情報は発信するもの？

世の中にはたくさんの方が溢れている。にもかかわらず、必要な情報はなかなか手に入らない。

ある日、友人いわく「情報はね。受信しようとしてもダメなんだよ。情報は発信するものなんだよ」。「どうして？」と聞くと「受信しようとしていても、なかなか欲しい情報が手に入らないでしょ？ところが自分の持っている情報を発信すると、必要な情報が勝手に入ってくるんだよね。たくさん出せばたくさん入ってくる。不思議だよね」。目からウロコだった。その日から私は「情報は発信するもの」を肝に銘じている。

当市では政策企画課に都市ブランド戦略係を置いて、市の情報を専門に発信するシティプロモーションを進めて



いる。現在は国内外に市をアピールするためのプロモーションビデオを作成しているが、来年の岩手国体やILC（国際リニアコライダー）誘致2020年のオリンピックなどを視野に入れたものである。

その一方で、市内16地区の自治組織や市民活動団体によるイベントなどの即時情報の共有や発信の仕組みづくりも進めようと考えている。昨年友好都市を締結した石垣市は、地域情報の発信をきめ細かく行っている。ホテルでテレビを付けると地元ケーブルテレビから見どころやイベント情報が入り、車で出かけるとコミュニティFMから地域イベントの実況中継が入る。イベント会場では電話インタビューを受けることもたびたびである。ホスピタリティーの発信に地域メディアをうまく使っているのだ。

ホスピタリティーが高いと言われている当市ではあるが、地域メディアを通じた情報発信はまだまだ未熟である。「情報は発信するもの」を肝に銘じながら、その環境づくりを急がなければならないと改めて思っている。